



かんせいちゅうがっこう 寛政中学校だより

だいごう
第6号

れいわ ねん がつ にち かんせいちゅうがっこう
令和7年10月20日 寛政中学校

「多文化共生の時代を生きる 私たちへⅡ」

こうちょう なかむら まさかず
校長 中村 雅一

やっと秋らしくなってきました。スポーツ、芸術、読書、食欲——まさに実りの秋です。

◆ JICA ホームタウン事業の撤回と社会の不安

先月号でも触れた JICA の「ホームタウン事業」は、SNS 上で「移民を定住させる制度だ」といった誤情報が拡散し、自治体への抗議が相次いだ結果、白紙撤回となりました。

背景には、JICA の説明不足や国の移民政策の不備があったと指摘されています。十分な説明がなされないまま撤回されたことで、人々の間には「やはり、やましいことがあるのではないか」という不信感が広がりました。結果として、一部の排外主義者やレイシストが偽情報をもとに社会を動かしたという「成功体験」を得たなら、それは極めて望ましくないことです。さらに、これを契機に権力が言論や表現の自由を制限する方向に傾けば、社会は非常に危うい状況に陥りかねません。

もっとも、さまざまな意見や不安の声があったこと自体は、社会として健全なことでもあります。大切なのは、互いの意見をぶつけ合うのではなく、ていねいに理解し合い、歩み寄ろうとする姿勢を持ち続けることではないでしょうか。

◆ 移民社会としての日本の現実

少子高齢化が進む日本は、すでに人口の約3%が外国人であり、現実には「移民社会」と言えます。にもかかわらず、「移民国家ではない」と言い続けてきたことが、国民の意識と乖離し、不安や混乱を招いています。成蹊大学の伊藤昌亮教授は、「外国人が生活を脅かす」「税金を吸い上げる」といった誤った言説が不安心理と結びつき、反発が噴き出したと指摘しています。

◆ 歴史の教訓 — 関東大震災の悲劇

およそ100年前の関東大震災では、「井戸に毒を入れた」というデマが広がり、多くの朝鮮や中国の人々、障がい者、沖縄や地方出身者が命を奪われました。ここ横浜でも悲惨な事件が起きています。恐怖や不安の中で、誤情報に流され、弱い立場の人を排斥してしまった——この歴史を私たちは決して忘れてはなりません。

◆ 身近にある文化的多様性へのまなざし

一方、私たちの身近なところでも、文化の多様性をどのように受け止め、共に生きる社会をどう築くかが問われています。それは差別や偏見といった大きな問題だけでなく、「異なる価値観をどう理解し合うか」という日常の中の小さな選択にも表れます。

今夏の甲子園大会では、沖縄尚学高校の応援団が披露した伝統芸能「チョンダラー」が話題になりました。白塗りの顔や芭蕉布の衣装が、「顔のペイントや民族衣装を禁止する」という高野連の応援規定に触れるとして準決勝で注意を受けたのです。

確かに、応援活動には一定の規定があり、「競技の妨げにならない」「応援の公平性を保つ」といった目的があります。過度な演出や騒ぎを防ぎ、試合の進行を円滑にするという意義も理解できます。しかし、顔の装飾や民族衣装が本当に競技を妨げるのかという点には、疑問も残ります。むしろ、一律に定められた規定の運用によって、地域の伝統や文化的表現までも制限せざるを得ないという状況が生まれたのではないのでしょうか。

沖縄尚学は、決勝戦ではその注意に従い、伝統の姿を封じた形で試合に臨みました。不服な思いもあったかもしれませんが、それでも見事に日本一を勝ち取りました。その応援席は一丸となり、熱気と結束に満ちていました。沖縄県民もその姿に沸き上がり、テレビの画面越しに、あるいは球場で声援を送りました。チョングラという文化的表現を抑えながらも、心の中で誇りを失わず、静かに差別や同調圧力を跳ね返した——。その姿に、強さと深い感動を覚えました。

チョングラは旧盆のエイサーに由来し、先祖への感謝と祈りを表す沖縄の大切な文化であり、差別の歴史を乗り越えて受け継がれてきた誇りでもあります。その背景を理解せずに「見た目が異なる」という理由だけで排除してしまうことは、文化の多様性を決めることにつながります。この事例は、ルールをどう運用し、どのように多様な価値を尊重していくかという、私たち社会全体への問いかけでもあります。文化を理解しようとする姿勢があれば、単なる禁止や排除ではなく、互いに納得できる形を探る対話が生まれるはずで、一方で、共に生きるためには最低限のルールを共有することも欠かせません。ルールとは誰かを縛るためのものではなく、互いを守り、安心して共に過ごすための社会的約束です。

私たちが目指すべきは、「理解のない自由」でも「共感のない規律」でもなく、理解とルールが支え合う、成熟した共生社会の在り方です。教育現場こそ、その価値を学び、実践していく場所でありたいと考えています。

◆ 多文化共生の未来へ

私たちの社会は、すでに多様な文化や背景を持つ人々によって成り立っています。価値観の衝突を避けるためには、国による移民政策や人権政策の整備が欠かせませんが、それと同時に、私たち一人ひとりの理解と責任ある姿勢も必要です。誤情報や偏見に惑わされず、互いの文化を尊重し合うことは、過去の過ちを繰り返さないための確かな道であり、未来を拓く力となります。学校や地域においても、多文化共生の姿勢を大切に、子どもたちと共に「共に生きる社会」を育んでいきたいと思っています。

最後に、一昨年も紹介したジャーナリストの安田浩一氏の言葉を改めて引用します。

「私たちの社会は異質な他者を排除することで成立している面があります。そのとき排除されるのは、決まってマイノリティ（少数者）です。・・・（中略）・・・差別と偏見の向こう側には、常に殺りくと戦争があります。だから絶対に差別を許容してはならないのです。」（『月刊 日本』2023年より）

私たちが次の世代に託すべきものは、恐れや排除ではなく、理解と尊重の心です。その小さな積み重ねが、真に豊かな社会をつくっていく力になると信じています。

かんせいさい じゅんぴ すす 寛政祭の準備、進んでいます！

10月22日(水)に開催される第64回寛政祭に向けて、各クラス一丸となって準備を進めています。

寛政祭の準備の様子を、クラス代表が考えた紹介文とともにお届けします。

1-1 スーパーマリオ

クラス代表 曾我 陸翔、比嘉 輝星

1年1組は「スーパーマリオ」をします。マリオやルイージ、キノピオ、ピーチなどで、ゲームや映画の場面を再現します。一番の見どころはチームクッパ VS チームマリオのダンスバトルと、最後にあるマリオパーティーのミニゲームを会場みんなでやることです。初めての寛政祭なので、成功できるか心配ですが、個性豊かなメンバーで、団結して楽しい劇にするので、ぜひ楽しみにしててください。



1-2 イカゲーム Ver.1.2

クラス代表 東 優奈、田山 勇人

1年2組はとあるゲームを題材にして、劇を行います。私たちの劇の特徴は、全員が役者として登場することです。私たちは一人ひとり、一生懸命練習しています。

当日はいろんなキャラクターがドタバタするのでお楽しみください。

……それでは、ゲームを開始します。



2-1 トイストーリー2 ～十人十色 狂ったアンディーをもとに戻し脱出しろ！～



クラス代表 川満 智愛美、高橋 美幸

2年1組はクラス目標である「十人十色」をテーマに台本を作成しました。

十人十色は2年1組の個性豊かなたくさんの方の個性を生かしていきたいという思いを込めています。昨年度よりもレベルアップした私たちの発表をぜひご覧ください。

2-2 The 5 floor

クラス代表 ダ シルバ サマンタ、矢上 美優

今年は昨年の劇で活躍したウッディーと雨穴と一緒に登場します！みんなで奇妙な家を探検しながら、新たなキャラクターたちと出会い、協力してアンディーを倒すストーリーです。

今は学級目標の「百折不撓」をテーマに、みんなでダンスやセリフを覚えることに挑戦して最後までしっかりと取り組んで頑張っています。

今年の劇は最高に盛り上がるようにするので、ぜひ楽しく見てください！



3年 KGC 寛政ガールズコレクション～赤学年の魂～

学年代表 岡 優奈、真鍋 心愛、向久保 司穂、仲座 アリサ、三上 謙、牧山 小夏

私たちは、3部制のスペクタクルな劇を行います。学年全員、一人残らずステージに立ち、輝きます！
それが私たちのプライドです！見ている人たちが全力で楽しめるパフォーマンスをお約束します。今年の
寛政祭も、私たち、赤学年のパワーを感じてください！ご期待ください！



5組 パフォーマンス



クラス代表 大越 ケンゾウ、池間 姫歌
私たち5組は「心を燃やして一致団結」をテーマに、
パフォーマンスの練習をしています。初めての挑戦
で、最初はなかなかうまくいきませんでしたが、練習
を重ねていくうちに、どんどん上達してきました。本番
では緊張して失敗してしまうかもしれませんが、
一生懸命練習したので、当日、練習の成果を楽しみに
しててください。

11月の主な予定

10/31(金)～11/1(土) 個別支援学級合同宿泊学習
(三浦YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ)
11/4(火)、5(水)、7(金) 3年進路面談
11/7(金) PTA実行委員会 指名委員会
11/10(月) 放課後学習会

11/11(火) 学習相談
11/13(木)、14(金) 後期中間テスト
11/19(水) 放課後特別講座
11/20(木) 学校保健委員会(食育)
11/26(水) 放課後学習会

スクールカウンセラー来校日：11/4(火)、5(水)、11(火)、13(木)、18(火)、20(木)、27(木)

火曜日：柳澤 千晶 SC、木曜日：池澤 千夏 SC が担当いたします。

※11/5(水)は池澤 SC が担当いたします。